

- II-5 当科における過去4年間の子宮体癌症例についての検討
 ○田村 良介 田中 誠悟 石原 佳奈 湯澤 映
 高橋 秀身
 (大館市立総合病院・産婦人科)

- II-6 進行食道癌を合併した急性骨髄性白血病を治療し得た1例
 ○田中 円葵¹ 小笠原 仁¹ 中川 悟²
 鎌田 耕輔³ 山居 聖典¹ 相澤 弘¹
 吉原 綾子¹ 木村 あさの¹
 (大館市立総合病院¹ つがる市民診療所²
 独立行政法人国立病院機構弘前病院消化器血液内科³)

進行食道癌を合併した急性骨髄性白血病を治療し得た1例を経験したので報告する。症例は70歳台男性、下部食道癌(cT3N3M1、cStageIV、高～中分化型扁平上皮癌)および急性骨髄性白血病分化型(予後中間群、M2)の重複癌との診断となった。急性骨髄性白血病の病勢が強く、予後決定因子となり得ると判断し、急性骨髄性白血病の治療を優先する方針とした。日本成人白血病治療共同研究グループのAML201プロトコールに基づき、寛解導入療法および強力寛解後療法を施行した。白血病に対する治療中に行った各種検査において食道癌は局所病変およびリンパ節病変のいずれも縮小しており、引き続き白血病の治療を継続した。強力寛解後療法終了後、急性骨髄性白血病は完全寛解となった。骨髄抑制からの回復を待ち、食道癌に対して放射線治療を行い完全奏功となった。治療終了後約1年間は食道癌、急性骨髄性白血病のいずれにおいても再発なく経過した。その後食道癌の再発を認め、他院で原発巣切除術を施行した。

食道癌288例中造血器悪性腫瘍を重複した症例は4例(1.3%)であると長瀬らは報告している。また造血器悪性腫瘍284例中、食道癌を重複した症例は1例(0.4%)であるとの野らは報告しており、これら2つの重複は非常に稀な病態である。国内において食道癌と急性骨髄性白血病の重複癌の報告は5例あるが、いずれも予後不良であり数ヶ月で死亡している。本症例では予後規定因子である急性骨髄性白血病の治療を優先し、治療開始後も全身状態の評価を定期的に行い、その時点で行うことができる最大限の治療を選択することができた。このことが食道癌および急性骨髄性白血病の重複癌といった予後不良の病態において、予後改善およびQOLの維持に寄与したと考えられる。

- II-7 地域医療を考える 医食充大作戦
 ○伊藤実喜 (医療法人健永会 明日実病院)

- ① 衣食住から医食充の時代へ
- ② 食・動・排・温・買・交を支える医療へ
- ③ 買い物困難者→低栄養→病人増加を救う医療へ
- ④ 食の宝庫ショッピングモールを活用する医療へ
- ⑤ 国際交流を実践する医療へ